



秘伝の「しんこ団子」

日吉町立扇尾小学校

児童数14名、完全複式の扇尾小学校は、日置郡日吉町の山間部に位置し、水田を抱える典型的な山間型農村地帯にある。

本校は、「郷土のよさを生かす学習指導法の研究」を主題に研究実践に取り組みながら、郷土素材を生かした学習活動の中で、児童が郷土のよさに気づき、郷土の発展に資する人材に育つことを願っている。

今回は、扇尾小学校を訪ね、郷土素材である「しんこ団子」を生かした創造的な学習活動について取材したことを紹介する。

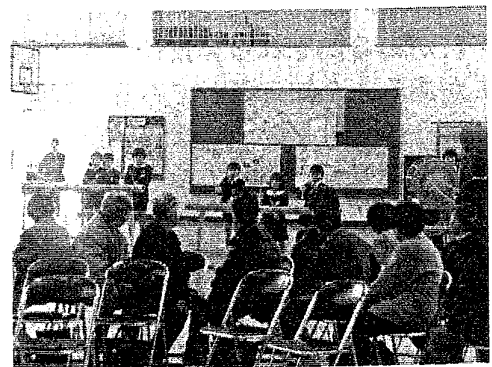
1 郷土素材としての「しんこ団子」

扇尾小校区に「深固院（じんこいん）」という寺跡がある。この寺を建てた石屋（せきおく）和尚の生きた時代は、戦乱の世で、山奥の扇尾でも、村人は作物を自分で食べることができないほど飢えに苦しんでいたそうである。石屋和尚は座禅石の上で毎日念仏を唱えながら、村人の飢えを救う名案を考えるのである。ついに浮かんだ名案とは、落ち穂を拾って団子を作ってみようというものだった。それが、約700年前に生み出された「しんこ（深固）団子」であり、今でも扇尾名物の一つとなっている。

この話は、石屋和尚の人々への優しさ、人類愛として語り継がれ、学校でも「扇尾のこころ」として受け継がれている。

2 「しんこ団子」の教材化

「しんこ団子」は、団子を作る活動、食べる活動、由来を調べる活動などの体験的な学習活動が考えられる。本校では、1・2年生の生活科、3・4年生の社会科や道徳、5・6年生の家庭科や総合的な学習の時間に教材として生かされている。そして、学習の成果を「扇尾祭り」として、保護者や学習活動でお世話になった地



扇尾祭りの様子から

域の人々に発表し、郷土を誇りに思う心を育てている。

ここでは、生活科と家庭科における郷土素材の活用について紹介する。

(1) 生活科（1・2年）

単元「たんけんにいこう」（4月）では、学校探検と校区探検の学習活動がある。特に、校区内の探検には、深固院の探検、蛇の穴の探検、蛍のいる川の探検、春の花や生き物探しなど、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動が設定してある。

【深固院探検の場面から】

主な学習活動（1時間）	児童の気付き	関連・発展
① 紙芝居「和尚さんとしんこ団子」を観る。（日吉町司書補助会作）	○ 和尚さんの優しさ ○ しんこ団子の由来	○ 地域の文化 ○ 米作り
② 深固院を訪ねる。	○ 和尚さんを敬う地域の人々	○ 「深固院祭り」への参加
③ 学習を振り返る。	○ 地域のよさ	○ 豊かな地域

児童は、この学習を通じて郷土の食べ物として伝わる「しんこ団子」を再認識する。

児童の姿として、PTAの協力を得て育てている稲をよく観察するようになったり、秋の「深固院祭り」を楽しみにしている様子や蛍の飛び交う豊かな郷土に関心をもつ様子が見られるようになったりするなど、地域への愛着が深まった。

(2) 家庭科（5・6年）

総合的な学習の時間に単元「〇〇名人に学ぼう！」（全21時間）の学習活動を行った。

その際、オリエンテーションとして、「しんこ団子」の試作による失敗体験を基に、児童は地域のしんこ団子名人に自分の失敗体験を紹介したり、名人の団子作りのコツや苦労話などを聞いたり、実技指導を受けたりしながら、自分の学習テーマを設定する活動へと展開していった。

そこで、家庭科学習では、この総合的な学習の時間の学習と関連させ、「しんこ団子」づくりを次のように実習した。

主な学習活動（2時間）	児童の意識や反応
① 今日の学習について話し合う。 秘伝のしんこ団子を作ろう。	○ 最初のしんこ団子作りは失敗したから今度は失敗しないぞ。
② 材料を確認する。 ・餅米粉 ・しょう油 ・砂糖 ・みりん ・竹串 など	○ 名人のとおりになれば成功するかな。 ○ おいしいしんこ団子を作るぞ。
③ 調理実習をする。 ○ 粉を水でこねる。	○ 作る手順や方法など、名人の教えを確かめたい。 ○ 分量を計量カップで正確に計る。

- 直径2cmほどに丸め、ゆがく。
- 団子を串に刺し、たれを付けて焼く。



- ④ 会食をする。
- ⑤ 後片付けをする。
- ⑥ 学習を振り返る。

- お湯で失敗したので、水で素早くこねる。こね具合を手で確かめる。
- 浮いてすぐに取り上げると中が粉っぽいので、時間を計って十分ゆがく。
- 秘伝のたれは、みりんとしょう油と砂糖を味見しながら調合する。
- たれを付けて2~3回焼く。

・「おいしいね」
 ・「こつが分かったよ」
 ・「さすがに名人だね」
 ・「私たちもできた」

- 分量や時間を計ることが大切だ。
- 手順良く、味見するなど確かめながら調理することも大切だ。
- 名人に報告とお礼の手紙を書こう。
- 米作りの成果や手作りのしんこ団子を「扇尾祭り」で披露しよう。

児童は、自分たちの失敗体験と名人の教えを踏まえ、今度こそ自分の手で「おいしいしんこ団子」を作ろうという意欲を高めている。調理実習の様子から、「調理に必要な材料の分量、調理の手順、目的に応じた調理の仕方」などの基礎・基本を児童自ら身に付ける楽しい学習活動であったことや家庭科の目標に迫る真剣な姿が容易に想像できる。

3 取材を終えて

3・4年生の道徳学習でも、読み物資料「和尚さんとしんこ団子」を活用して、道徳的価値「郷土愛」の内面化を図る学習を行った。

このように、児童に身近な郷土素材「しんこ団子」が教材化され、体験的な学習を通じて児童自ら基礎・基本を身に付けるとともに、郷土への愛情をはぐくんでいる。郷土素材の教材化の一例として「しんこ団子」を紹介したが、本校区にはその外に、米やお茶、日置瓦や酒造、蛍や数々の季節の動植物、せつぺとべや五穀豊穡を願う各種の踊りなど、豊かな自然、社会や文化が息づいている。

創造的な学習活動とは、児童自ら学ぶ学習活動に他ならない。本校では、今年もまた地域の人々を巻き込みながら、学習の成果を「扇尾祭り」で盛大に披露することだろう。

今後一層、扇尾小の児童が自ら郷土のよさにかかわる学習活動を展開しながら「扇尾のこころ」をはぐくみ、豊かに花開くことを期待したい。

(教育経営研修室 研究主事 野間 芳人)